

官民連携で挑む「十勝式移住定住支援モデル」

ー 広域連携による移住体験ツアーの実証実験から見たもの ー

NPO法人 Qucurcus

近年、地方移住への関心が高まる一方で、移住希望者と地域との間には依然として大きな情報格差が存在しています。移住フェアやインターネット上では得られない「実際の暮らし」の情報を、どのように届けるか。この課題に対し、NPO法人Qucurcusでは、十勝地域の自治体と連携し、広域型の移住体験ツアーを実施しました。本事業は、移住検討者目線に立った官民連携型の広域移住体験ツアーを通じて、移住成立に寄与する要因を明らかにし、「十勝式移住定住支援モデル」の構築につなげることを目的としています。

【複数自治体を一度に巡る「広域連携型ツアー」】

2026年2月27日から3月1日にかけて、「移住検討者向け！あなたの『住みたい』を見つけに行く 十勝移住スペシャルツアー」を実施しました。対象エリアは清水町、鹿追町、芽室町、音更町の4町。主催企画は当法人が担い、各自治体の移住担当職員が現地案内や相談対応を行いました。参加者は東京都および神奈川県から3名。少人数でしたが、その分、一人ひとりの希望や不安に丁寧に向き合うことができました。

本ツアーの特徴は、「複数自治体を比較しながら体験できる」点にあります。移住検討者にとって、移住先を一地域だけで判断することは難しく、気候、生活環境、商業施設、住宅事情、交通、地域コミュニティなど、比較して初めて見えてくる 경우가多くあります。

一方、小規模自治体にとっては、単独で移住体験ツアーを企画・運営するには人的・財政的負担が大きいという現実があります。そこで、広域連携によって互いの資源を持ち寄り、効率的かつ実践的な移住支援を目指しました。

【事前オンラインセミナーが生んだ“深い対話”】

今回は、ツアー実施前に4町合同のオンラインセミナーも開催しました。過去の実施で参加者から好評だったことを踏まえ、ツアー参加者以外にも対象を広

げたところ、12名の申込があり、当日は13名が参加しました。オンラインセミナーでは、各自治体担当者が地域概要や生活環境を説明し、参加者は基礎情報を得たうえで現地を訪れることとなりました。

その結果、現地では「地域の説明」を繰り返す必要が減り、住宅事情や仕事、冬の暮らし、人間関係など、より具体的で踏み込んだ相談に時間を割くことができました。単なる情報提供ではなく、「自分がここで暮らせるか」を参加者自身が具体的に想像できる状態をつくれたことは、大きな成果だったと感じています。



4町合同のオンラインセミナー

【“観光”ではなく、“暮らし”を見る】

ツアーでは、スーパーやドラッグストア、公営住宅、図書館、体育館など、実際の生活に直結する場所を中心に案内しました。参加者からは、「複数の町を比較しながら見られたのが良かった」「生活のイメージが具体化した」という声が寄せられました。特に印象的だったのは、「住宅だけでなく、その周辺環境や街並みも見られると参考になる」という意見でした。

移住検討者が本当に知りたいのは、物件情報だけではありません。朝起きてから夜眠るまで、どんな風景の中で暮らすのか。買い物は不便ではないか。雪道はどうか。地域の空気感は自分に合うのか。そうした“暮らしの温度”こそが、移住判断に大きく影響します。また、「地元食材の質の高さ」など、十勝ならではの食の魅力を評価する声もあった一方で、「車が必須」「商業施設の選択肢が少ない」といった現実的な課題も率

直に共有されました。移住支援において重要なのは、地域の魅力だけを伝えることではありません。不便さも含めて誠実に伝えることが、結果として移住後のミスマッチ防止につながると実感しています。



町営住宅の見学

【冬開催だからこそ見えた“リアル”】

今回のツアーは、当初予定していた秋開催から冬開催へ変更して実施をしました。結果として、これは大きな意味を持ちました。参加者は、十勝の寒さや雪道、暖房環境などを実際に体感し、「冬の暮らし」を現実的に捉えることができました。北海道移住に憧れを持つ人は多く、しかし、冬の厳しさを知らないまま移住すると、理想と現実のギャップに苦しむケースも少なくありません。だからこそ、あえて冬を見てもらう。これは移住希望者を減らすためではなく、「移住後も幸せに暮らせる人」を増やすための取り組みでもあります。



ランチ会場のCafe Kringel

【少人数でも“移住確度”は高い】

今回の参加者は3名でした。数字だけを見れば、決して多くはありません。しかし、過去2回のツアーでは、参加者の中から実際に十勝へ移住した人もいます。

移住支援においては、単純な参加人数だけでは図れない価値があります。重要なのは、「どれだけ移住意欲の高い層に届いているか」です。自治体担当者からも、「移住確度の高い参加者と直接接点を持てた」「移住フェアでは出会えない層にアプローチできた」といった評価が寄せられました。広域連携によって、自治体同士が互いの強みを再認識できた点も、大きな副次的効果でした。



4町の先輩移住者を招いて開催した“移住者座談会”

【「十勝式移住定住支援モデル」の可能性】

本活動を通じて、「広域連携」「リアルな生活情報の提供」「冬季体験」「高確度層へのアプローチ」が、移住成立に寄与する重要な要素であることが見えてきました。移住は、人生に関わる大きな決断です。だからこそ、表面的な魅力発信だけではなく、「ここで暮らす未来」を具体的に想像できる支援が求められています。今後は、都市部での情報発信強化や北海道関連施設との連携を進めながら、より多くの移住検討者との接点を創出していきたいと考えています。また、本モデルは十勝地域だけに限らず、人口減少や担い手不足に直面する他地域にも応用可能な取り組みであるといえるでしょう。地域の魅力を競い合うのではなく、地域同士が連携しながら移住希望者と向き合う。その積み重ねが、持続可能な地域づくりにつながっていくのではないかと考えています。



ククルクス
NPO法人 Qucurcus
ホームページ
<https://qucurcus.or.jp/>